

## きぬちゃん注目の出土品 !!

1・3区の調査では、土器や石器、金属製品、玉類といった様々な遺物が出土しました。とくに古墳時代の土師器は、現時点でコンテナ約270箱分が出土しており、今後の竪穴建物跡の調査でさらに多くの土器が出土することが予想されます。鉄製品は約140点出土し、遺跡の出土品の豊富さを際立たせています。

たくさんの出土品の中から厳選して紹介するぞ!



いりり 曲炉裏跡付近で出土したススの付いた甕 (古墳時代前期)



103号墳の埋葬施設で見つかった須恵器と鉄鏃 (古墳時代中期末～後期)



99号墳で見つかった土器 (古墳時代中期末)

さびているけど、形がしっかりと残っているな!



方形板刃先 (古墳時代前期頃)



銅鏃 (古墳時代前期頃)

今回の調査で出土した玉類 (装飾品)



ヒスイ製 勾玉 ガラス製 小玉

ヒスイ製の勾玉やガラス製の小玉など、いろいろな形や色があってきれいですね。

## 最新情報コーナー

発掘調査の最新情報はホームページやFacebookでチェック! YouTube公式チャンネルでは、遺跡の解説動画や発掘現場レポートを配信中です!

### 新・長瀬高浜だより既刊号

新・長瀬高浜だよりのPDFデータをダウンロードできます!  
(創刊号～第3号公開中)



## オススメ YouTube 動画

▼前編・後編の2本立てで、長瀬高浜遺跡をわかりやすく解説!



▼島跡の調査成果はこちら!



YouTube



ホームページ



Facebook



## 主催・発行機関

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室

〒682-0704 東伯郡湯梨浜町南谷 528-1 TEL: 0858-35-5335 FAX: 0858-35-5336  
HP: <http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu.html>

## 共催

湯梨浜町教育委員会 (生涯学習・人権推進課)

〒682-0723 東伯郡湯梨浜町久留 19-1 TEL: 0858-35-5367 FAX: 0858-35-5387  
HP: <https://www.yurihama.jp/soshiki/20/>

## 北条砂丘の遺跡を掘る!

(公財) 鳥取県教育文化財団調査室広報誌



# 新・長瀬高浜だより

R5 現地説明会 特別号

2023年11月18日発行

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室では、遺跡の発掘調査や出土品の整理作業など、埋蔵文化財の調査を行っています。令和4年度から一般国道9号(北条道路)改築に伴う長瀬高浜遺跡の発掘調査を開始しました。今号では、令和5年度の最新の調査成果について紹介します。



大量の土器が見つかった竪穴建物 (1区)

### 【調査の概要】

調査地点: 長瀬高浜遺跡1・3区  
調査期間: 令和5年5月29日～令和5年12月中旬(予定)  
調査面積: 3,093㎡ (1区: 1,373㎡、3区: 1,720㎡)  
主な遺構: 中世(鎌倉時代～室町時代)の畠跡  
古代(平安時代末期)の掘立柱建物跡  
古墳時代の竪穴建物群、古墳  
主な遺物: 中世の磁器・陶器  
古墳～平安時代の土師器・須恵器  
鉄器、石器、勾玉、銅鏃など  
※主な遺構・遺物は現時点での状況。



新たに発見した古墳の埋葬施設 (3区)  
※現在、埋葬施設は解体し、石材を取り除いた状態です。

## 長瀬高浜遺跡とは? ～遺跡の概要と令和の発掘調査～

長瀬高浜遺跡は、鳥取県東伯郡湯梨浜町に所在する砂丘遺跡です。1974年の遺跡確認以降、下水道処理場建設や一般国道9号改築事業などに伴って行われた発掘調査により、集落跡、古墳などの墳墓、畠跡など、多くの遺構が発見されました。国の重要文化財に指定された埴輪群や、金属製品、大量の土器など遺物も豊富で、鳥取県を代表する遺跡の一つです。

前回の調査から約四半世紀が経過した現在、湯梨浜町はわい長瀬から東伯郡琴浦町槻下までの区間で建設工事が進められている北条道路の工事範囲に遺跡の一部が含まれているため、令和4年度から3カ年の計画で、はわいインターチェンジ付近の約8,500㎡を発掘調査することになりました。





令和5年度現地説明会 長瀬高浜遺跡1・3区の調査成果  
古墳時代前期の大集落跡を調査

長瀬高浜遺跡1・3区は、遺跡が広がる砂丘の北西部に位置し、現在の地面の標高は9m前後にあります。遺跡は厚いところで約4m堆積したシロスナ層の下、クロスナ層（黒色をした砂層）から見つっています。このクロスナは砂丘の発達が一止まり、植物が繁茂することで形成された地層で、人々が住みやすい草原のような環境であったと考えられます。

遺跡は天然の良港であった東郷池に近く、また当時の天神川は遺跡の南～東側を流れており、日本海を介した交易に有利な立地でした。

交通の要衝に位置する長瀬高浜遺跡は古墳時代前期初め頃（約1700年前）から大集落として繁栄しますが、中期後半頃（約1550年前）には集落が衰退し、古墳がつくられるようになります。

大発見！古墳時代の囲炉裏跡



囲炉裏（赤丸部分）が出土した竪穴建物 (S249)



囲炉裏から出土した炭のかたまり



囲炉裏を覆う炭まじりの砂とススのついた土器

調査区西端に位置する小型の竪穴建物跡の中央付近から炭のかたまりが見つかりました。炭の周囲に環状に土手がつくられた構造から囲炉裏と考えられます。炭のかたまりを覆っていた炭まじりの砂からはススのついた土器が数点出土しており、この囲炉裏で使用された鍋等である可能性があります。炭は丸太や筒状のものが焼けたように見え、囲炉裏の施設の一部であった可能性があります。これまでに類例がほとんど知られていません。よくわかっていない古墳時代の炊飯や調理を解明するうえで大きな手がかりとなるのではと期待される発見です。

密集する竪穴建物跡と大量の土器



竪穴建物跡から出土した大量の土器 (S249)



竪穴建物跡から出土した完形の土器 (S256)

調査区全体から60棟以上の竪穴建物跡が見つかりました。その多くは古墳時代前期（約1700～1600年前）の住居跡とみられ、複雑に重なり合うことから、同じ場所で建て替えながら住み続けていたことがわかります。建物内からは廃棄された土器が大量に出土しています。

今回の調査で古墳時代の集落遺跡では山陰最多級であった竪穴建物跡の数がさらに増加し、遺構が密集する集落の特徴がより鮮明となりました。



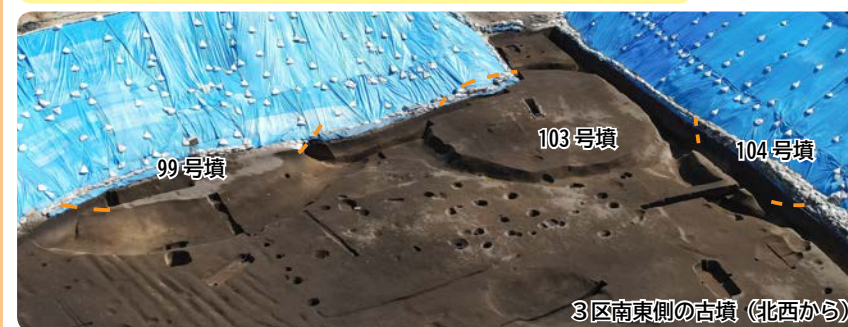
3区で見つかった竪穴建物跡 (S557)



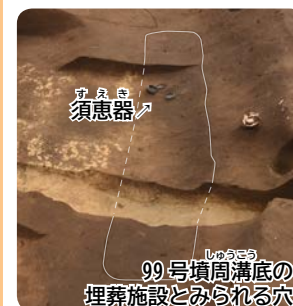
大型壺とたくさんの小型丸底壺 (S557)

大集落廃絶後の遺跡の移り変わり

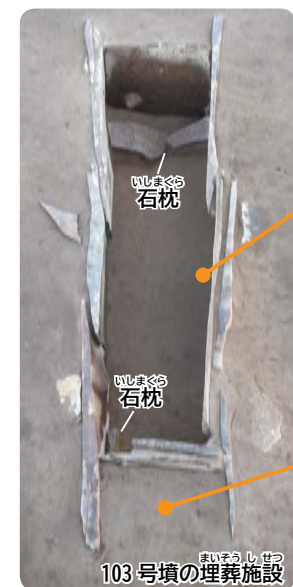
古墳群の調査（集落から墓地へ）



3区南東側の古墳（北西から）



99号墳周溝底の埋葬施設とみられる穴



石枕

石枕



棺内に副葬された鉄鏃



99号墳周溝底の穴の真上で見つかった壺



須恵器

集落廃絶後、調査区東側は墓地（古墳群）として利用されています。確認した4基の円墳のうち、99号墳と103号墳は古墳時代中期末～後期前半頃（約1500年前）に埋葬が行われています。直径約15mの103号墳では、埋葬施設である箱式石棺（板石を箱状に組んだ棺）から石枕とともに2体の人骨が見つかり、鉄鏃などが副葬されていました。99号墳では、周溝の底で埋葬施設とみられる穴が見つかりました。

現地説明会みどころマップ

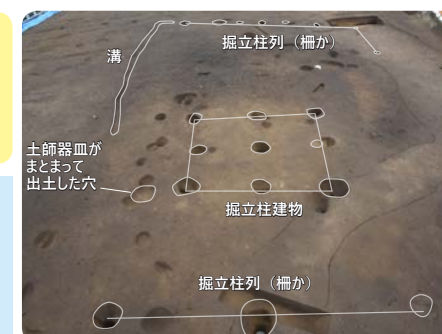
茶色部分は全て竪穴建物跡です。

102～104号墳は新発見だぞ！



平安時代終わり頃の掘立柱建物跡の調査

平安時代には再び建物が営まれます。調査区全体で少なくとも5棟の掘立柱建物があり、3区側では古墳の周溝などの窪みを埋め立てて建築しています。柱列などで囲まれた9本柱の掘立柱建物の近くでは、平安時代末期頃（約900～1000年前）の土師器の皿9枚がまとめて出土しました。



3区で見つかった9本柱の掘立柱建物跡



土師器の皿がまとめて出土したようす